

第15回デメンシアカンファレンスを開催

2016年6月22日

6月22日(火)に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)「第15回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、国立病院機構北陸病院、医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院の8施設が参加しました。

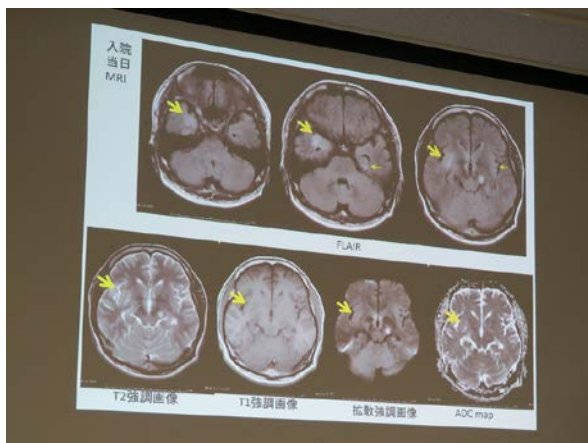
「認知症機能低下が亜急性に進行した若年男性例」のタイトルで、富山大学 神経内科からの症例報告が進められ、第15回目のデメンシアカンファレンスは、富山大学と各施設間で活発に質疑応答や意見交換が行われました。



富山大学からの症例報告の様子



各会場の様子



スライド資料投影の様子



富山大学会場の様子

第 15 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『認知機能低下が亜急性に進行した若年男性例』

発表者：山本真守（富山大学附属病院 神経内科）

司 会：道具伸浩（富山大学附属病院 神経内科）

【要 旨】

49 歳、男性。意識障害、書字困難を主訴に来院した。30 歳頃、不特定多数と性交渉歴があった。某年 11 月上旬に 37 度台の発熱、体の痛みを認めた。11 月中旬から返事が曖昧となり、書字困難が出現した。11 月下旬に当院を受診した。皮疹はなかったが、見当識障害、短期記憶障害及び計算力低下を認めた。脳 MRI で右側優位に側頭葉下部から島皮質、下部線条体に T2 強調画像で高信号病変を認め、左大脳脚は T2 強調画像、拡散強調画像でも高信号で ADC は低下していた。髄液で蛋白 96mg/dl、細胞数 134/3mm³ と髄膜炎所見を呈しており、梅毒反応は血清と髄液の両検体で梅毒 RPR、梅毒 TP 抗体ともに高値であったため、神経梅毒と診断した。ペニシリン G2400 万単位/日を 14 日間持続点滴した。HSV 脳炎も否定できず、当初はアシクロビルも投与したが、髄液 HSV-PCR の陰性判明後に中止した。応答や書字は改善し、MMSE は 23 点から 27 点に改善した。髄液の蛋白、細胞数、梅毒 RPR は減少し、MRI も T2 強調画像の信号が低下した。神経梅毒は早期に脳炎様症状をきたすことが報告されるようになっており、治療可能な認知症の鑑別疾患として重要である。

【質問・意見】

質問：腫瘍性病変、脱髄性疾患も鑑別に上がるのではないか？

回答：本例では実際には早期に神経梅毒と診断しており、腫瘍性病変は画像上明らかでなく、検討していない。脱髄疾患も可能性あるが調べなかった。

コメント：髄液梅毒検査が陽性であり、MS、NMO などの脱髄疾患があっても、まず梅毒の治療をしたであろう。

質問：全身痛は梅毒関節炎の所見の可能性はないのか。

回答：入院時痛みなく、関節痛ははっきりしなかった。

コメント：第 2 期梅毒の症状で関節炎があり、出現してもおかしくないが、特定できなかった。



NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第15回

デメンシアカンファレンス

平成28年6月22日(水) 18:30~20:00

【認知機能低下が亜急性に 進行した若年男性例】

担当：富山大学 神経内科

対象：参加施設及び
その他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生を含む)



【認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所】

- ・金沢大学(医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室)
- ・富山大学(附属病院2階カンファレンスルーム2)
- ・福井大学(院生棟4階セミナー室)
- ・金沢医科大学(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
- ・国立病院機構医王病院(臨床研究棟会議室)
- ・石川県立高松病院(医局会議室)
- ・国立病院機構北陸病院(特殊診療棟2階小会議室)
- ・谷野呉山病院(共通棟1階ミーティング室)
- ・魚津緑ヶ丘病院(5階会議室)
- ・福井県立すこやかシルバー病院(管理棟2階応接室)

申し込み不要

出席者は受付で出席受付簿に記入し、
教育コース履修者は本人保管用の受講票を
もらって検印を受けてください。

お問い合わせ先：

北陸認プロ運営事務局

〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号

TEL:076-265-2149

FAX:076-234-4208

e-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL:http://ninpro.jp/